


# 2016年 大事にする心

第6号 

学校教育目標：「地域に根ざし、心豊かにたくましく生きる生徒の育成」

校長 氏原 一宏

## 実りの2学期めざして

(始業式にて)

32日間の夏休みがあつという間に終わりました。部活動、体験活動、高校のオープンスクールへの参加、海外交流への参加、中学生キャンプ、補習、プール、プール当番、学校当番など、学校に来る機会も多く、いろいろなことにチャレンジしている皆さんの様子を見て、とても頼もしく感じました。充実した夏休みを過ごしたと思います。県総体男子バレー部、陸上に参加した中込君、津谷君、角田君、よく健闘しました。吹奏楽部は吹奏楽コンクールで最終演奏校として素敵な演奏を発表し銀賞を受賞しました。少年の主張弁論大会に参加した1年生の深澤穂乃花さんは見事「山梨放送賞」を受賞しました。先日の北杜署管内の交通安全弁論で3年生の保坂廉君が第3位、防犯弁論で同じく3年生の駒井美乃莉さんが優勝を受賞しました。駒井さんは県大会に進みます。皆さんの様々な場面での活躍の朗報に心温まりました。何よりも皆さんが無事に2学期の始業式を迎えられたことを喜び合いたいと思います。

さて、2学期は81日間という最長の学期です。学園祭、音楽発表会、新人戦、生徒会役員選挙、芸術鑑賞などなどたくさんの行事が予定されています。1人だけでは成し遂げられない活動も多いと思います。2学期を充実したものにするためにも、



「piece を積み重ねる」ことを意識しよう。

piece(ピース)は、「1片」。この piece を積み重ねることが実は物事の成功の秘訣です。「ひとつひとつ」「一日一日」を大事にすること。piece は、皆さん 一人一人ということもできます。実り多き2学期を期待します。

男子バレー県大会にて

### ■始業式学年代表生徒の2学期の抱負■ (発表内容を要約し、文体を常体にしてあることを御了承ください。)

始業式の中で、各学年代表が、原稿を見ないで堂々と2学期の抱負を発表しました。

#### 【1年 亀井 香里さん】

個人としてがんばりたいことは、クラスへの呼びかけ。1学期はあまりできなかったのが、副委員長として2学期はがんばりたい。1学期ははじめがつけられない時があったので、誰かが注意してくれるのを待つのではなく、自分ではじめをつけて呼びかけたり、時計を見ながら行動したい。クラスとしてがんばりたいことは二つある。一つめは瀬音祭を成功させること。成功させるために練習から一人一人が集中し協力しながら取り組みたい。みんなが笑顔で終われるようにしたい。二つめは学習面。1学期は自主学習を全員が毎日できなかったのが、復習を中心に取り組みたい。2学期は音楽発表会もあり行事がたくさんあるので、クラスで協力し、充実させたい。

#### 【2年 齊藤 幸輝君】

夏休みをとおして多くのことを学んだ。職場体験では、スーパーおのさんに行った。朝4時半から市場に行き、買った商品をトラックに載せる仕事を体験した。また、せりなどの見学もした。とても迫力があつた。三日間体験し、スーパーは商品を並べるだけではなくお客さんのことを考えて、毎朝新鮮な商品を出していることを学べ、ありがたいと感じた。また、野球部でロータリー大会に二番ショートで出場した。新チーム初めての試合で不安だらけなうえに外野手から内野手になり不安がもっと増えた。みんなで声をかけあい勝つことができとてもうれしかった。二試合目はコールドで負けてしまった。新人戦では勝てるように練習したい。2学期は瀬音祭がある。二度目なので、劇を成功させるために表現力を昨年よりレベルアップさせ、見ている人に伝わるように練習したい。委員長のなつみさんと副委員長の自分で声をかけ、引っ張っていきたい。

#### 【3年 石井 <sup>こゆる</sup>超 さん】

2学期に頑張りたいことは二つ。一つ目は勉強面。私達3年生はこの夏休みを『入試準備期間』と呼んだ。最初のうちは劇の練習や部活動で、入試準備期間に入る前と変わらなかった。8月に入ると、気持ちを切り替え、皆が落ち着いて少しずつ勉強への取組ができるようになった。「整理と対策」というワークを中心に進めた。他にもポスターや習字、全校制作などもあり多少は忙しかったけれど、皆、将来を見据えてコツコツと頑張ったと思う。2学期のテストにも全員で切磋琢磨して頑張りたい。最上級生としてさらなるレベルアップを図り、後輩達に何かを残していく準備を始めたい。



二つ目はクラスをまとめること。1学期はあまりクラスをまとめられなかった。クラスの皆が何も言わなくても動いてくれたり、声をかけあってくれた。しかし、助けて貰ってばかりではリーダーとして成長しない。瀬音祭を通して団結するためにも、自分から声をかけ先頭に立って一生懸命取り組み、全員が同じ温度、歩幅で前進していきたい。

# Welcome to our school !!

今学期から新しいALT、Cassandra Nutt（カサンドラ ナット）先生が赴任しました。カサンドラ先生は、北杜市と姉妹関係にあるアメリカ ケンタッキー州の出身で、日本に留学経験もあり、日本語も上手に話します。Let's enjoy learning English with her.



## 活躍する武川中生

夏休み中から休み明けにかけて、いくつかの大会で、皆さんの活躍が成果となり、表賞されました。入賞者の皆さんの健闘を讃えたいと思います。

- 吹奏楽コンクール ① 銀賞 吹奏楽部 (7/31)
- 山梨県少年の主張コンクール ② 山梨放送賞 1年 深澤穂乃花 (8/21)
- 韮崎ロータリークラブ野球大会 ③ 第3位 野球部 (8/20)
- 中学生交通安全弁論大会北杜地区大会 ④ 第3位 3年 保坂 廉 (8/30)
- 少年を非行から守る中学生防犯弁論大会北杜地区大会 ④ 優勝 3年 駒井美乃莉 (8/30)



① 演奏後 安堵



②カキーン



③少年の主張



④交通安全・防犯弁論

## 「天災は忘れた頃にやってくる」

(寺田寅彦)

9月1日(木)は「防災の日」でした。本校では時間を事前に知らせない中での避難訓練を実施しました。無駄もなく整然と避難・集合ができました。この「防災の日」は、1923年(大正12年)9月1日に起こった関東大震災にちなんで設定された日です。関東大震災は震度7、マグニチュード7.9、死者10万人超という大災害でした。それ以降、大震災は1995年阪神淡路大震災(震度7、M7.3、死者6000人超)、2011年東日本大震災(震度7、M9.0)と続き、今年(2016年)4月には熊本地震(震度7、M7.1、死者50人)が起きました。

大地震はいつ起こってもおかしくありません。その時、いかに落ち着いて自分で判断できるかが大事です。

東日本大震災の時、釜石の小中学生はほとんど逃げて助かりました。『釜石の奇跡』などと呼ばれています。しかし奇跡ではなく、日頃から「防災教育」に力を入れていました。その教えが現実に生かされました。その教えの中心になる「避難三原則」というのがあります。①「想定にとらわれるな」(「想定だところなるだろう、ハザードマップだとここは安全・・・」ということとは現実が大きく違うことがある。想定を過信してはいけない。)②「その状況下でできる最大限のことをせよ」③「率先避難者たれ」(とにかく自分が安全な場所に逃げる。家族のことを心配して危険な所へ行かないで、それぞれが必ず避難場所に避難していると考え、各自はとにかく非難する。)

今日の日をまた契機に、防災に備える意識をつくりましょう。

## プレイバック武川中 その3

災害と言って思い出すのは、武川を襲った昭和34年の水害です。当時の「沿革史」に次のような記述がありました。

■八月十四日 台風第七号より上陸し本県を通過 前夜来の豪雨は河川の大氾濫を起こし、加えて上流山岳地帯の崖崩れもしきりに至り午前七時四十分頃 津波の如き濁流は各河川とも一挙に大氾濫を起こし、本村至る所に未曾有の水禍に見舞われるに至った。最大の被災地は下三吹地域にて、家を流されたもの数十戸、死者行方不明者二十数名を出すに至った。本校も建物施設等一時は危険にさらされたも幸いにも大過なく免れた。本校職員〇〇教諭は、この大災害の尊い犠牲者となるに至った。同教諭は前日より勤務し、校舎内外の警備に当たり、本日は当直の任に当たるため午前七時頃、大武川の水勢護岸の状況を見んものと河岸に行きたるまま、その消息を絶ち行方不明となるに至ったのである。

この時、1年生女子1名も犠牲者となってしまいました。武川中関係者の御冥福をお祈りするとともに、武川にあった大災害の記憶をとどめ、語り継ぎ、防災への教訓と認識を新たにしたいと思います。(この件は再度取り上げます。)

## 瀬音祭 coming soon !

来る9月10日(土)・11日(日)の2日間、生徒会最大行事「瀬音祭」を開催します。目下、劇、合唱、部門などの準備に全校生徒で熱く取り組んでいます。今後、ポスターや新聞チラシなどで詳細日程はお知らせしますが、当日は、生徒の発表を是非御参観ください。

10日(土) 発表・展示部門 開祭式 8:45 ~ (体育館) 11日(日) 体育部門 開会式 9:45 ~